

活動指導案

実践団体名 新口町自主防災会

■基礎データ

① タイトル

隣接する3つの自治会の連携による、合同防災訓練を実施する。

② 活動の概要

開発後50年が経過し高齢化が進む新興住宅地、昔からの伝統を維持する「本村」を取り囲むように人口が増加している新旧混在地、ほとんど人口の動きがなく世帯数も42とこじんまりした家族的な地区 のお互いの特性を尊重しながら、隣接する地域の住民が協力して開催する。

③ 目標・ねらい

いずれの地区も高齢化が進んでおり、住民が安心して暮らせるまちづくりをするため、地域を超えた助け合いができるようなネットワークの形成を図る。

④ 活動で上げることが
できる力・能力

・災害時の人的ネットワークの構築
・災害時の連携体制の確立(避難誘導のシュミレーションの能力向上、救出・救護のマンパワーの強化、消火活動強化、緊急時の炊き出し体制の整備)

⑤ 対象者(受ける側)

隣接する3つの自治会住民

⑥ 活動・作業形態

・避難誘導訓練(一時集合地から指定した場所への住民の避難誘導) ・救出・救護訓練(毛布を使った簡易担架、三角巾による応急治療)
・消火訓練(水消火器を使った初期消火、放水ポンプでの本格消火訓練) ・給食給水班(うどんの炊き出し訓練) ・情報班(救護物資[おにぎりと水]の配布訓練)
・防火用水池の清掃

⑦ 準備するもの
(道具、材料等)

・避難訓練用の地域別プラカード、毛布(数枚) 三角巾(数枚)、水消火器、消火ホース、エンジンポンプ、炊き出し用器具等一式(鍋、ガス、水、食材等)

⑧ 所要時間

AM8時～14時

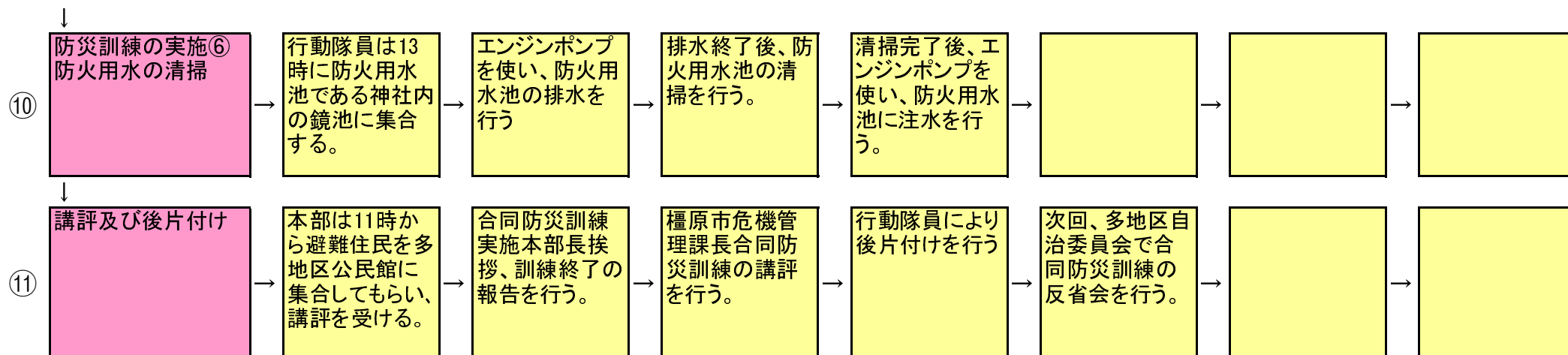
⑨ 必要なマンパワー
(実施者、役割、人数)

・新口町自主防災会行動隊 105名 本部 9名 情報班 班長以下 15名 消火班 班長以下 19名 救出救護班 班長以下 17名
給食給水班 班長以下 21名 避難誘導班 班長以下24名 ・飛鳥荘苑 防災役員 15名 ・西新堂町防災役員 8名

⑩ 必要経費
(所要額、財源)

・炊き出し具材等:20,000円(160人分)、 緊急避難食品:32,000円(おにぎり160個、ペットボトルお茶160本) 保険:6,000円





■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

平成22年度参加者は168名であり、平成21年度参加者164名を4名上回った。

②その他の評価

平成20年及び平成21年は外部の専門家による講演を行ったが、平成22年は全て行動隊員による訓練を行い、「手作り防災訓練」を実施できた。

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

- ・多地区合同防災訓練として、地域住民に年間行事として定着しており、複数の訓練を実際に体験できることが好評で参加人数が定着しつつある。
- ・各班の行動隊役員がベテランであり、事前準備等がスムーズに行く。
- ・毎年変わる隣組の班長さんを避難誘導班に組み込んでおり、裾野の拡大を行っている。

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物：①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名 新口町自主防災会

■基礎データ

① タイトル

回覧板を活用した防災マップ

② 活動の概要

消火栓、消火器設置場所や避難集合場所を地図に表示した防災マップを回覧版に貼り付け、地域住民に周知する。

③ 目標・ねらい

①地域の安全を守る ②防災意識を向上させる

④ 活動で上げることが
できる力・能力

①地域の安全性 ②地域住民の防災意識

⑤ 対象者（受ける側）

地域住民

⑥ 活動・作業形態

役員・各担当班長により作成

⑦ 準備するもの
（道具、材料等）

紙、地図、ラミネート機及びフィルム、パソコン

⑧ 所要時間

設置場所確認、作成、配布で1日

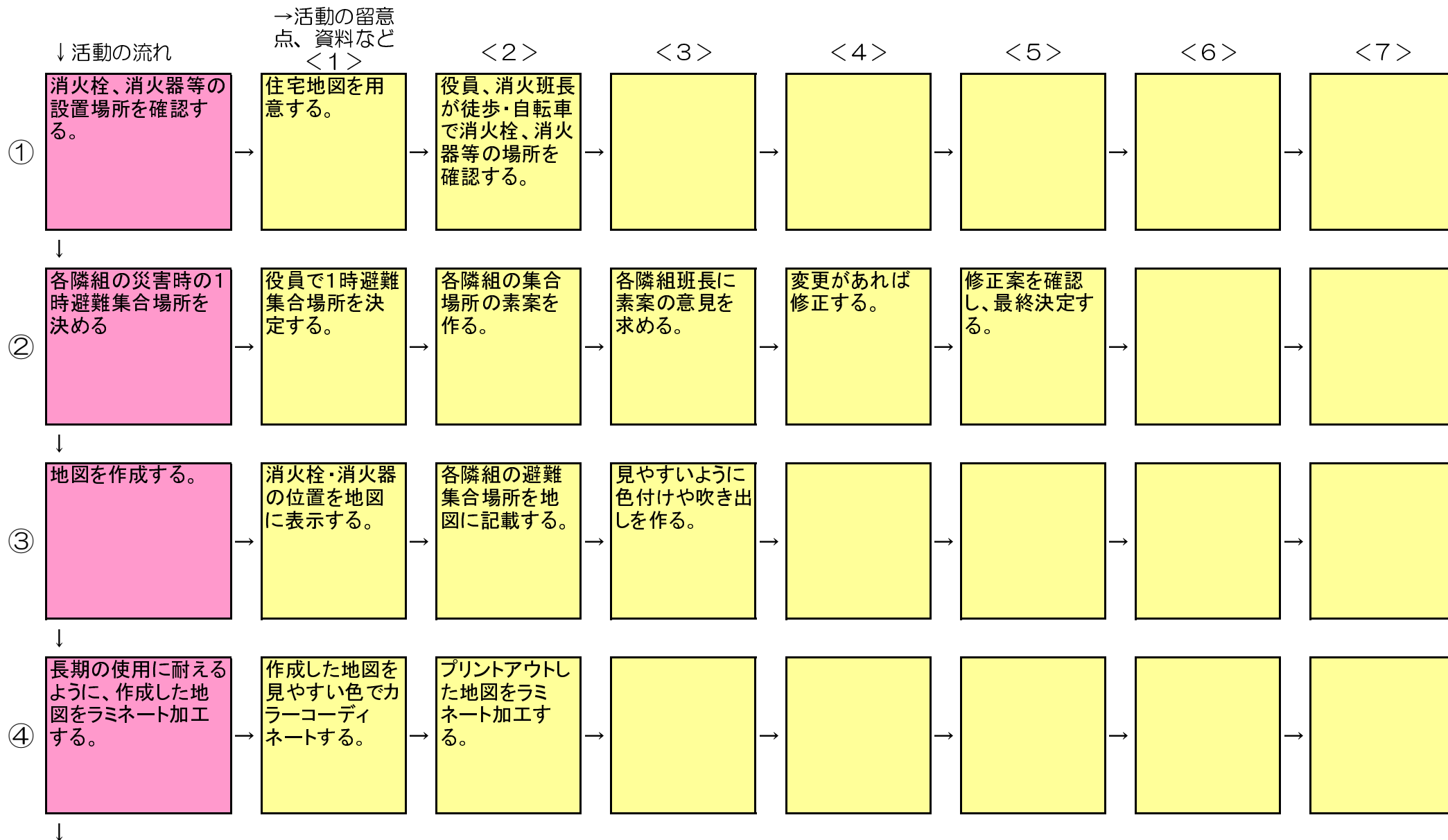
⑨ 必要なマンパワー
（実施者、役割、人数）

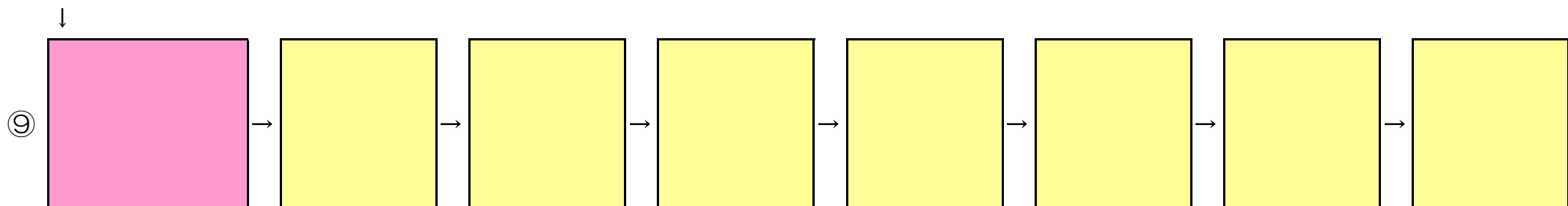
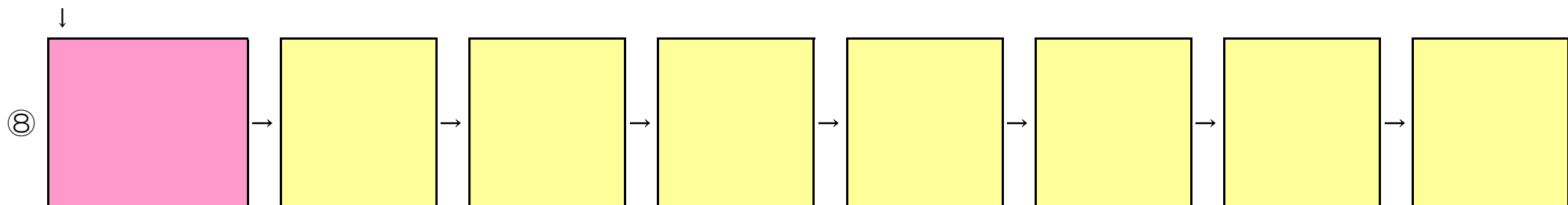
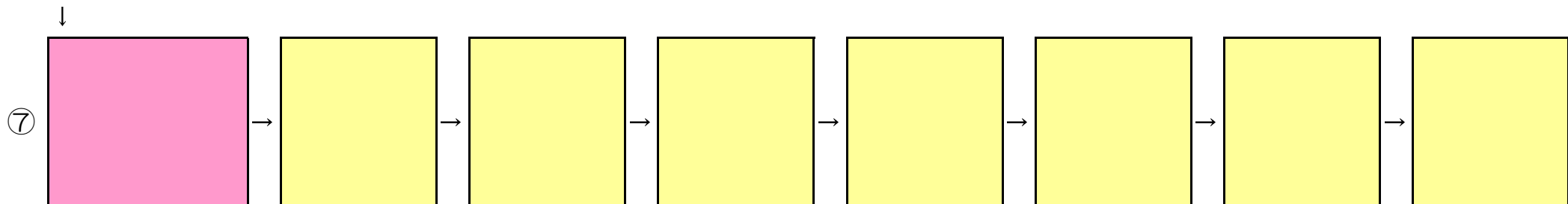
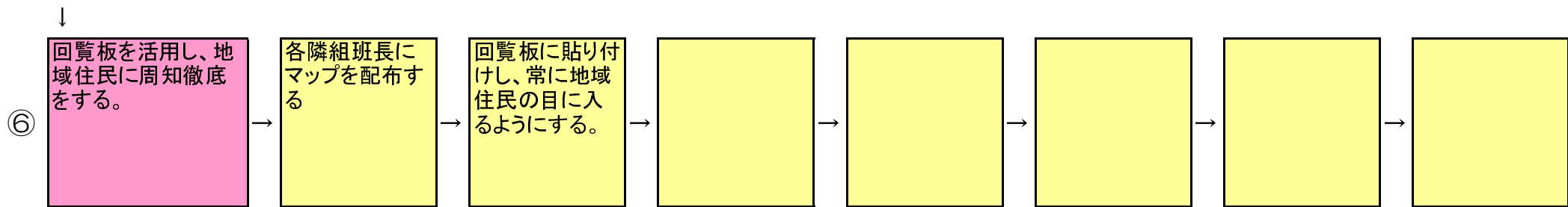
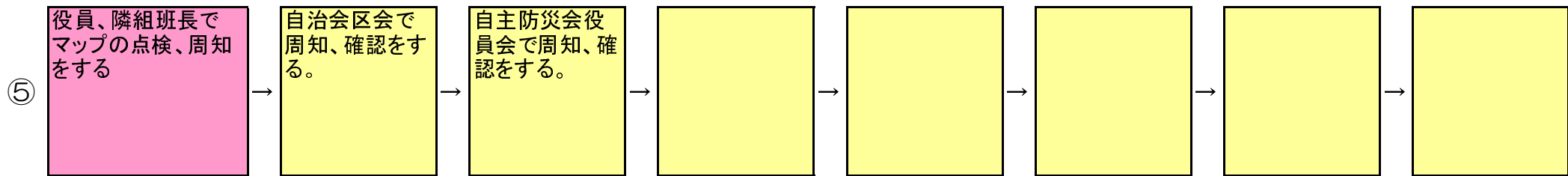
設置確認10人、作成1人、配布10人、訂正確認20人

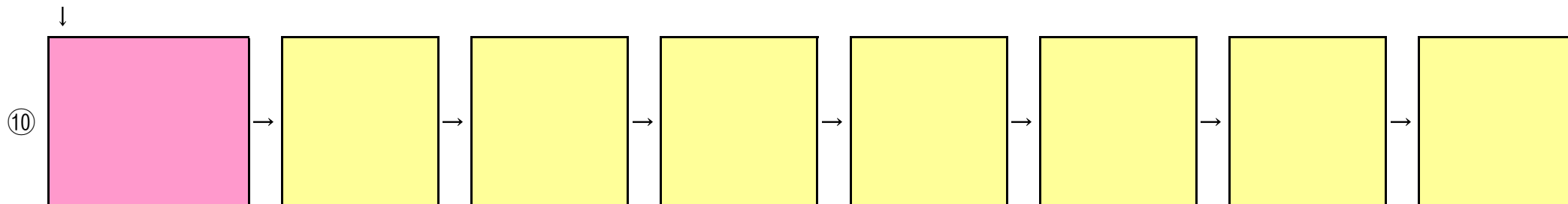
⑩ 必要経費
（所要額、財源）

合計2,000円。 自主防災会費で賄う。

■活動の流れ







■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

②その他の評価

消火栓、消火器の設置場所が住民に意識されるようになった。

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

①回覧板を地域活動の広報資源にする。 ②内容が大きく変わらないコンテンツを選ぶ。 ③見やすい工夫をする(色、デザイン等)。 ④長期の使用に耐えるようにする。

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物 : ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名 新口町自主防災会

■基礎データ

① タイトル

壮年会の人材を活かす自主防災組織の結成

② 活動の概要

結成25周年を迎える壮年会会員で、会員のキャリアを活かした「人材発掘」で自主防災組織を結成、防災活動を行う。

③ 目標・ねらい

①会員のキャリアの社会貢献を図る ②行政に頼らない自主防災活動の確立

④ 活動で上げることが
できる力・能力

①地域住民の防災力の向上 ②地域住民・壮年会・自治会・老人会・子供会等の交流、防災意識の向上

⑤ 対象者（受ける側）

地域住民

⑥ 活動・作業形態

日頃の交流を基にした自薦・他薦での人材発掘

⑦ 準備するもの
（道具、材料等）

⑧ 所要時間

日頃の交流

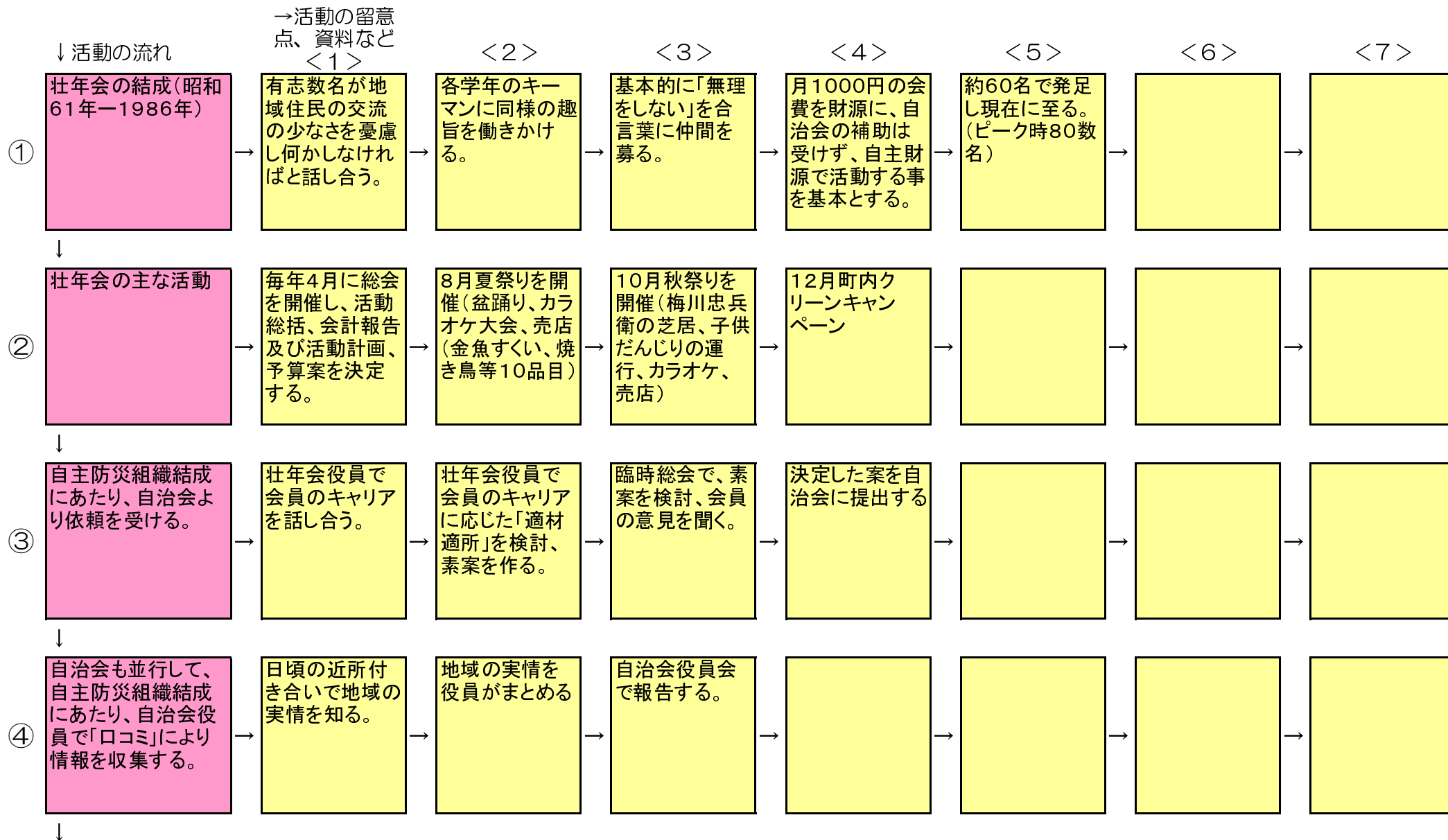
⑨ 必要なマンパワー
（実施者、役割、人数）

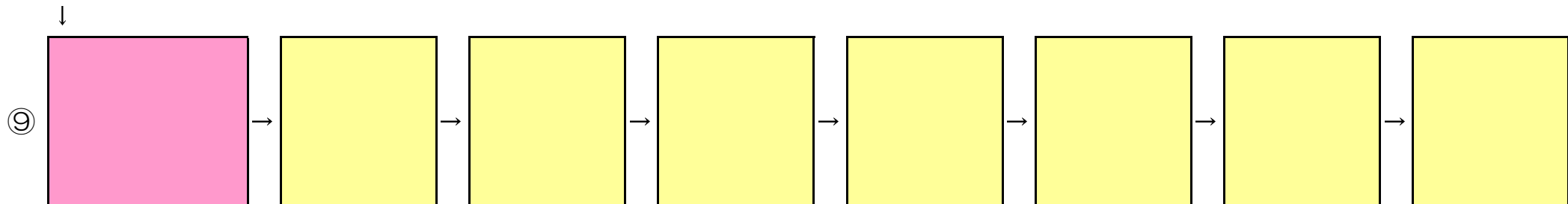
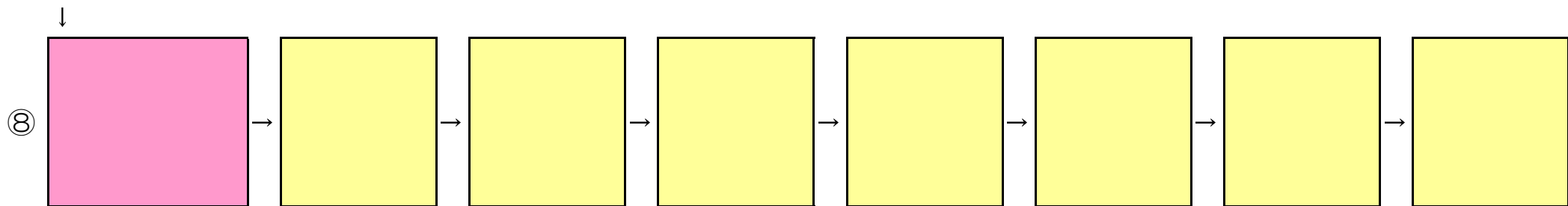
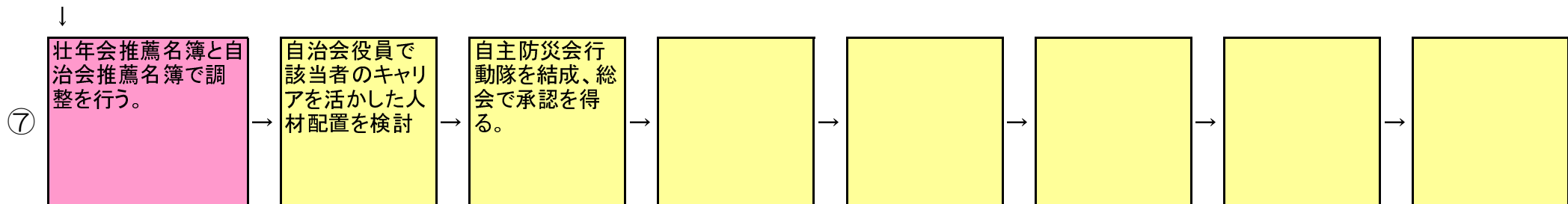
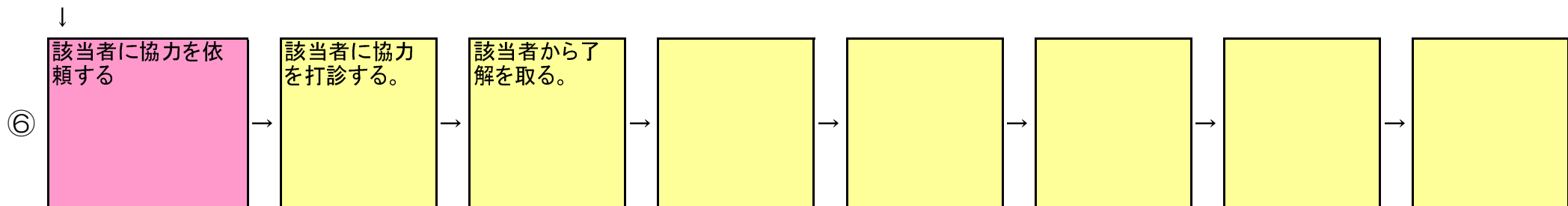
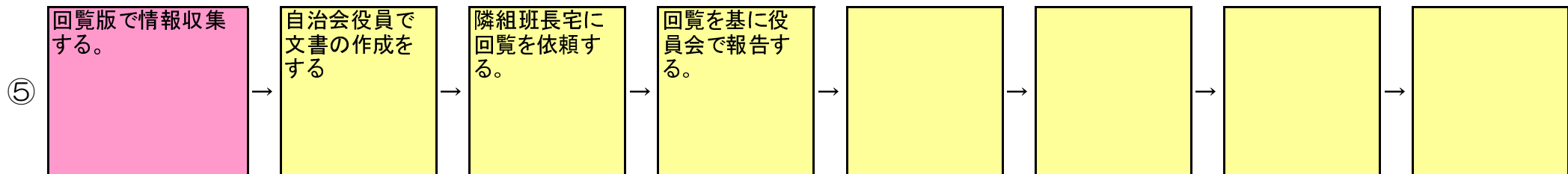
壮年会会員

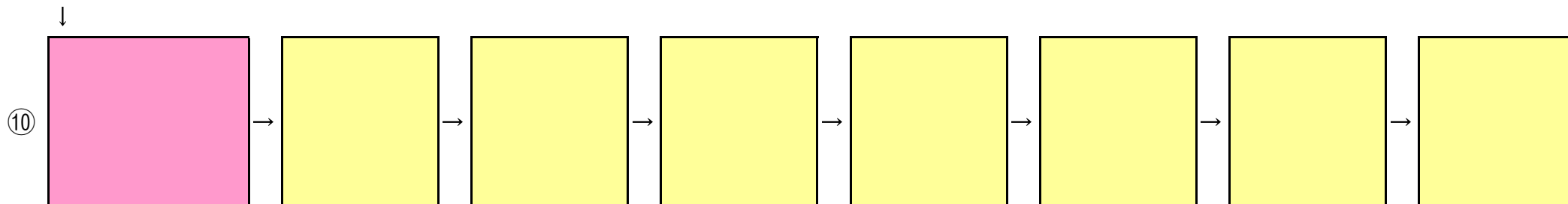
⑩ 必要経費
（所要額、財源）

特になし

■活動の流れ







■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

②その他の評価

①壮年会の会員が自主防災組織の中核を担っており、相乗効果として夏祭りや秋祭りの地域住民の参加が増加している。

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

①活動を長く続けるため「無理をしない」を合言葉にしている。 ②自主財源をベースに活動の自主性を図る。 ③会員の持っているキャリアを活かした人材配置をする。

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物 : ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名 新口町自主防災会

■基礎データ

① タイトル

消火ホース接続訓練を中心とした防災訓練を実施する。

② 活動の概要

毎年恒例になっており、住民が多数参加する町内用水路の清掃事業(通井張り行事)にあわせ、行事終了後毎年実施している町内単独防災訓練を行う。特に今回は住まいの近くにあるホース格納庫(町内15箇所)を活用した消火ホースの接続訓練を実施する。

③ 目標・ねらい

町内15箇所にある消火ホース格納庫を実際手に触れることにより、一層身近なものにする。

④ 活動で上げることが
できる力・能力

・消火ホース接続技能の向上
・初期消火対策の浸透

⑤ 対象者(受ける側)

自治会住民

⑥ 活動・作業形態

・消火栓の開閉 ・消火栓と消火ホースの接続 ・消火ホースとノズルの接続 ・消火ホースの収納

⑦ 準備するもの
(道具、材料等)

・消火ホース格納庫の用具一式

⑧ 所要時間

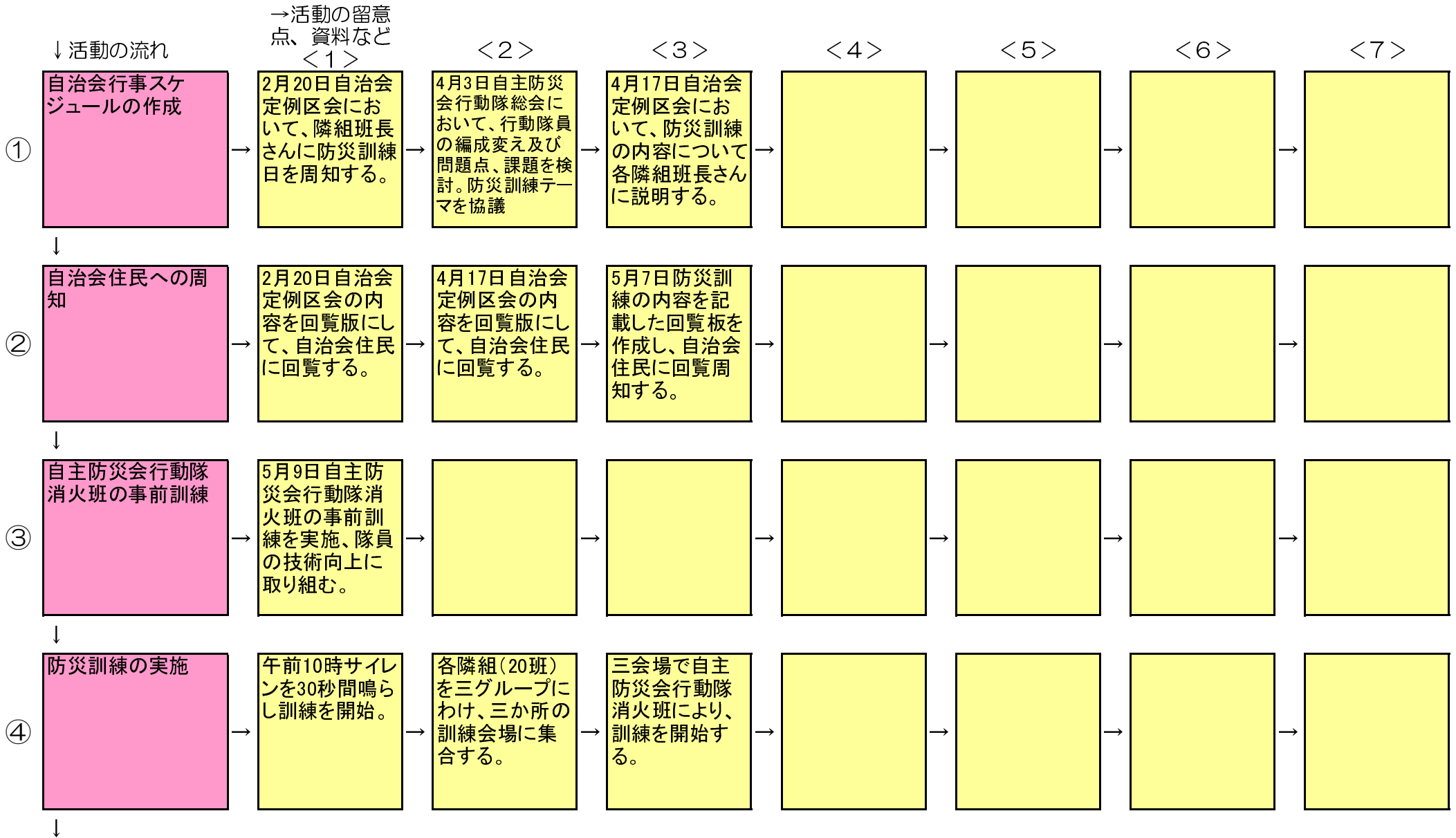
午前10時～12時

⑨ 必要なマンパワー
(実施者、役割、人数)

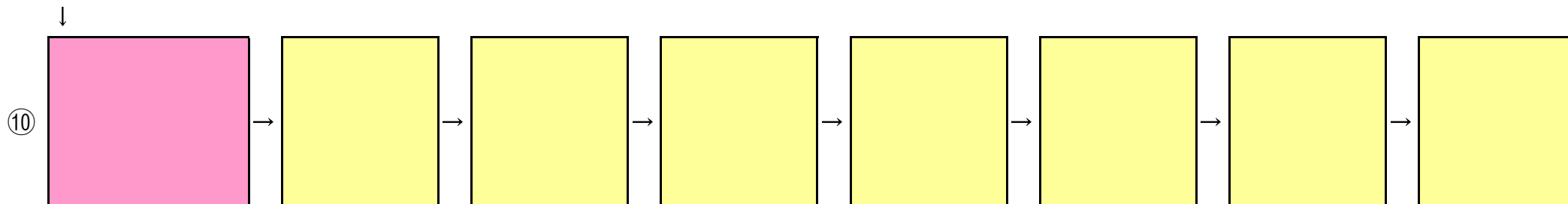
自主防災会行動隊消火班9名 及び自主防災会行動隊本部役員9名

⑩ 必要経費
(所要額、財源)

■活動の流れ







■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

- ・訓練参加者は70名と予想を上回った。
- ・昼間在宅されている主婦層の参加が7割を占めた。

②その他の評価

- ・消火ホース格納庫の中身を使用してもらったことにより、格納庫が身近なものとして認識された。
- ・過去に2回火災発生直後にホース接続、初期消火に成功し、消防車到着前に鎮火させている。

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

- ・消火栓、消火ホース格納庫、消火器の設置場所を町内の地図にカラー表示した「新口町消火栓位置図」を回覧版に張り付けし、活用性を高めている。
- ・消火ホース格納庫の中にイラストと写真で表示した「消火ホース接続マニュアル」を貼り付けしている。
- ・自主防災会行動隊の五つの班（情報班、消火班、救出救護班、給食給水班、避難誘導班）と本部役員により、月1回、消火ホース格納庫・消火器の点検を実施、異常がないか確認活動を行っている。

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物：①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名 新口町自主防災会

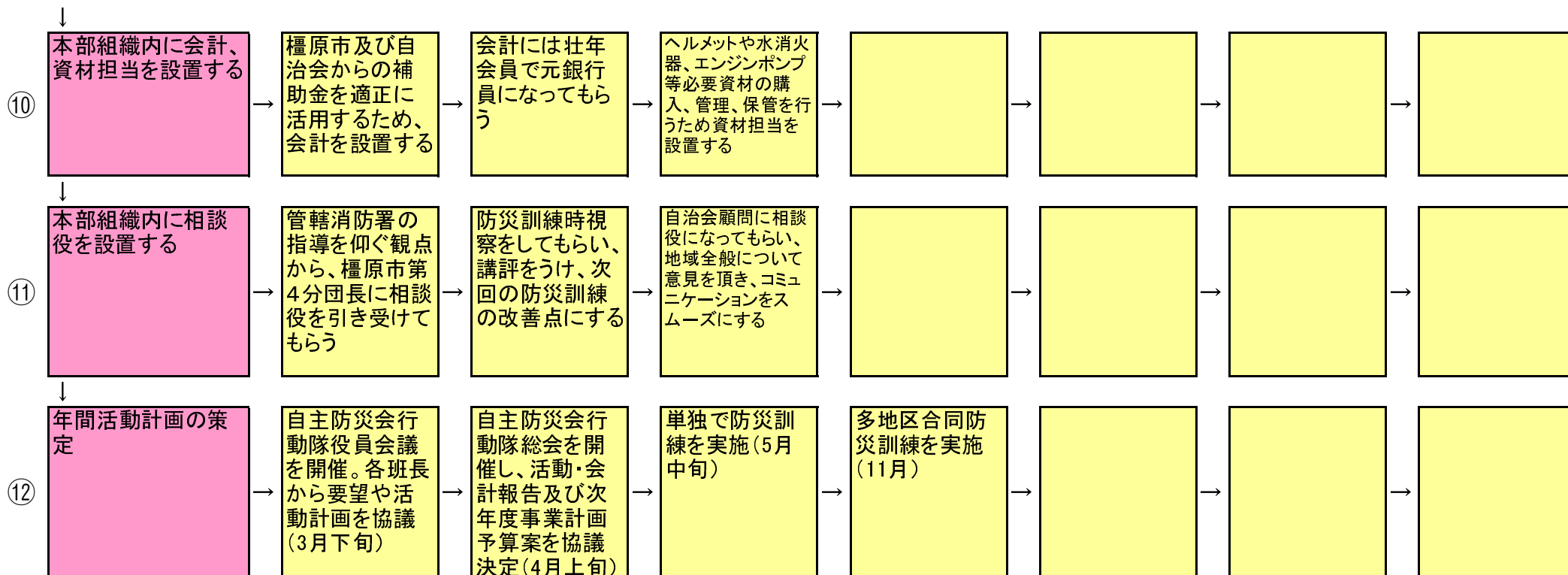
■基礎データ

① タイトル	「自主防災会行動隊」を組織する。
② 活動の概要	自治会長をトップに自治会役員、壮年会のメンバーを中心とした「自主防災会行動隊」を組織し、町内12か所に設置した消火ホース格納庫を活用、防災訓練等を行うことにより、町内の防災力向上に取り組む。
③ 目標・ねらい	<ul style="list-style-type: none">・町内12か所に設置した消火ホース格納庫の有効活用を図る。・自治会と連携した「自主防災会」を組織することにより、人材面・財源面・継続性等でバックアップ体制ができ、メンテナンスも可能になる。・自主防災会会員の安定確保を目指す。
④ 活動で上げることが できる力・能力	<ul style="list-style-type: none">・消火ホース格納庫の有効活用を図る。・防災訓練が組織的にできる。・恒常に新しい人材を確保できる。・他地区の自治体との連携が可能になる。
⑤ 対象者（受ける側）	自治会住民
⑥ 活動・作業形態	<ul style="list-style-type: none">・月1回 本部を含む担当の班により、消火器、消火ホース格納庫の巡回・点検を行う。・毎年5月に自治会単独の防災訓練を実施する。・毎年11月に三地区合同の防災訓練を実施する。・随時行われる奈良県や橿原市等行政主催の防災訓練に人材を派遣する。
⑦ 準備するもの （道具、材料等）	
⑧ 所要時間	
⑨ 必要なマンパワー （実施者、役割、人数）	<ul style="list-style-type: none">・本部(会長1名、副会長3名、監査2名、会計1名、資材担当1名)・消火班 班長以下19名・救出救護班 班長以下17名・相談役(橿原市第4分団)・給食給水班 班長以下21名・情報班 班長以下15名・避難誘導班 班長以下24名
⑩ 必要経費 （所要額、財源）	橿原市補助金 110,160円、 自治会補助金 100,000円

■活動の流れ







■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

- ・隣組班長経験者から、引き続き行動隊へ加入していただける方があり、高齢化に伴う行動隊員の減少をカバーしている。
- ・新興住宅地の若い住民の防災に対する関心は高く、防災訓練への参加も多く、旧村住民との交流に繋がっている。
- ・消火ホース格納庫は当初の12か所から15か所に増加した。

②その他の評価

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

- ・社会生活のキャリアを活かした人材の配置により、活動がスムーズにまた、一層専門的にできる。
- ・自主防災会行動隊の総会で活動報告、会計報告及び事業計画、予算案を協議決定しており、計画的に活動できる。
- ・月に1回分担して消火器、消火ホース格納庫の点検を行っている。

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物 : ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等